

戦後から学校ができるまで

戦後から学校ができるまで

戦後は、国に食べ物を供出しなければならなかったのも、たとえ農家といっても十分な食べ物はありませんでした。いもがゆや大根めし・麦めし・じゃがいもをきざんだものなどを食べていました。それらも、腹いっぱい食べることはできなかったのも、いつもおなかをすかしていました。このころの子どもたちは、周りに原っぱが多かったのも、ほとんど外で遊んでいました。しかし、農作業が忙しくなると、畑の手伝いをよくしました。昭和三十年頃までは、家が少なく、田柄町会には、練馬小学校二百軒くらいしかありませんでした。田柄の子どもたちは、遠く春日町にある練馬小学校へ歩いて通っていました。昭和三十二年に田柄小学校ができ、田柄町は、だんだんにぎやかになり年ごとに人口がふえてきました。地域の発展とともに児童数も増加し千五百人をこえました。昭和四十五年、地域の方々の強い願いと熱心な運動によって、ようやく田柄第二小学校がつくられることになりました。学校の周りには、まだ麦畑などがあり、春は、ひばりの鳴き声もきかれ、秋には、稲穂の波も見られました。広々としたキャベツ畑の中に、鉄筋三階建の校舎が建てられ、二十五学級、千二十三名の子どもたちで、開校しました。